

TOPIC

国内外から「スキートップアスリート」たちが遠軽町にやってくる！ FIS FAR EAST CUP 2020 ジャパンシリーズ遠軽大会 遠軽信用金庫杯、長谷川ペンギンベーカーリーカップ、デサントカップ

国内外の「スキートップアスリート」たちによる FIS（国際スキー連盟）公認大会「FIS ファーイーストカップ 2020 ジャパンシリーズ 遠軽信用金庫杯、長谷川ペンギンベーカーリーカップ、デサントカップ」が遠軽町で開催されます。トップスキーヤーによる豪快な滑りは「必見！」です。たくさんのご来場と選手たちへの温かいご声援をお願いします。

FIS FAR EAST CUP 2020

FIS ファーイーストカップ 2020 ジャパンシリーズ 遠軽大会
＜競技会場＞えんがるロックバレースキー場

FIS ワールドカップ出場を目指す
アジア最高峰のレースを、今年も遠軽町にて開催！

＜大会期間＞ 2/28(金) ~ 3/2(月)

- 日時
《公開トレーニング》
2月28日(金) 9時～
- 《遠軽信用金庫杯 大回転 男女》
2月29日(土) 9時～
- 《長谷川ペンギンベーカーリーカップ 大回転 男女》
3月1日(日) 9時～
- 《デサントカップ 回転 男女》
3月2日(月) 9時～
- 会場…えんがるロックバレースキー場
- 入場料…無 料
- 問い合わせ先
【遠軽大会組織委員会事務局】
遠軽町教育委員会社会教育課内
(TEL0158-42-2191)

2.28 9:00～ 公開トレーニング

2.29 9:00～ 遠軽信用金庫杯 GS

3. 1 9:00～ 長谷川ペンギンベーカーリーカップ GS

3. 2 9:00～ デサントカップ SL

遠軽信用金庫



公認 FIS (国際スキー連盟)、SAJ ((公財) 全日本スキー連盟)
主催 (公財) 北海道スキー連盟
主管 FIS ファーイーストカップジャパンシリーズ遠軽大会組織委員会、遠軽スキー連盟
後援 遠軽町、遠軽町教育委員会、遠軽商工会議所、(一社) えんがる町観光協会、株式会社北海道新聞社、NPO 法人 遠軽町スポーツ協会
大会支援 陸上自衛隊 第25 普通科連隊 遠軽駐屯地
特別協賛 遠軽信用金庫、長谷川ダイヤモンドキッチン㈱、デサントジャパン㈱

FIS FEC 2020 ジャパンシリーズ遠軽大会組織委員会事務局
TEL 0158-42-2191

2月のイベント

遠軽書道連盟展

- 日 時…2月4日(火)～16日(日) 9時～17時30分
※10日(月)、12日(水)は休館日
- 会 場…木楽館
- 入場料…無 料
- 問い合わせ先…遠軽書道連盟事務局 二瓶 (TEL0158-45-2010 職場)

年の初めにあたり、連盟会員7名の日ごろの鍛錬の成果を発表いたしますのでご笑覧ください。白と黒、線と造形の美をどうぞお楽しみください。



神秘の刻 山彦の滝ナイトツアー

- 日 時…2月8日(土)・15日(土) 17時30分～18時30分
3月7日(土) 17時30分～18時30分
- 集 合…やまびこ温泉(遠軽町丸瀬布上武利)
- 定 員…各日40名
※申込時、定員になっている場合があります。ご了承ください。
- 参加料…小学生1,000円、中学生以上1,800円
※ガイド料、やまびこ温泉入浴料、食事代、保険料 含む
- 問い合わせ先…丸瀬布総合支所産業課 (TEL0158-47-2213)

北海道の厳しい冬を物語るように、辺り一面原始林に囲まれた中で創り出される造形美、氷柱の「山彦の滝」をライトアップします。



厳冬!! 山彦の滝観察会

- 日 時…2月9日(日) 9時～12時15分
- 会 場…丸瀬布昆虫生態館、「山彦の滝」周辺
- 定 員…30名
※申込時、定員になっている場合があります。ご了承ください。
- 参加料…小学生1,100円、中学生1,400円、高校生以上1,600円
※昆虫生態館入館料、温泉入浴券、昼食補助券、保険料 含む
- 問い合わせ先…丸瀬布教育センター (TEL0158-47-2456)

丸瀬布の豊かな大自然を越冬する小動物や蝶の卵、運が良ければオジロワシの生態などを観察しながら、高さ「28m」から打ち落とされる氷柱の滝を求め、冬のトレッキングを楽しみます。この機会に、自然が生み出す神秘的な景観を是非ご覧ください。



サイエンスキャラバン in サロマ



- 日 時…2月16日(日) 10時～13時
- 会 場…佐呂間町民センター
- 入場料…無 料
- 問い合わせ先…佐呂間町教育委員会 (TEL01587-2-1295)

見て、触って、感じて、作って…驚きと発見の連続間違いなし! 子どもから高齢者の方まで誰もが楽しめる科学の実験・工作が盛りだくさん。不思議がいっぱい体験できる科学の世界を楽しみましょう。また、当日サイエンスキャラバン会場の駐車場では「かまくら雪まつり」も開催されています。

第6回 佐呂間町寿大学 学園祭

- 日 時…舞台発表 2月20日(木) 10時30分~14時30分
作品展示会 2月 6日(木) 13時
~20日(木) 14時30分
- 会 場…佐呂間町町民センター
- 入場料…無 料
- 問い合わせ先…佐呂間町教育委員会 (Tel.01587-2-1295)



佐呂間町寿大学(高齢者学級)では、学生が主体となって企画・運営をし、日頃の学習成果の発表と学生同士の交流を行う「学園祭」を開催します。

舞台発表では、午前中に4つのクラブがステージ上で歌声やダンスを披露し、午後からは学生の趣向をこらした余興を披露します。作品展示会では書道クラブと絵手紙クラブの作品展示のほか、学生による手芸作品などの展示も予定しています。



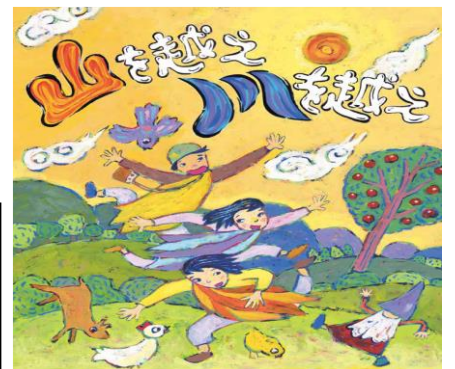
3月のイベント

子ども芸術劇場(幼児・小学校低学年向け公演)

- 日 時…3月22日(日)【開場】13時 【開演】13時30分
- 会 場…遠軽町基幹集落センター
- 出 演…劇団風の子北海道公演 児童劇「山を越え川を越え」
- 入場料…無 料
- 問い合わせ先…遠軽町教育委員会 (Tel.0158-42-2191)

山を越え、川を越えてやってきた風の子3人組。子供たちが氷や土で時間を忘れて遊ぶように、新聞紙やビニール袋といった身近なものを使って遊びます。

遊んだあとの、「まほうのりんご」の劇は観る人の心を温かくします。



町民芝居ゆうべつ 第18回公演「小さなまちの、講道館」



- 日 時…3月22日(日)【開演】14時
- 会 場…湧別町文化センターさざ波
- 入場料…無 料
- 問い合わせ先…劇団事務局 (Tel.080-5581-4791)

町の歴史を題材にした舞台を町民自ら作り続けている町民芝居ゆうべつの第18回公演。昭和初期、東京から湧別へ疎開した家族の物語、湧別での苦しくも暖かい生活、そして講道館を開くまでの道のりを、笑い涙で描きます。

~特集記事~ 遠軽地区の開拓

それぞれの町では当時どのような開拓の苦労があったのか、特徴的な出来事や当時の様子を掲載していきます。第2回目は遠軽町の開拓について2つの記事を紹介いたします。

遠軽町丸瀬布「開拓はアイヌの人たちに支えられた」

丸瀬布郷土史研究会 文責 小谷英充

昭和37年(1962年)町主催の開拓古老座談会で古老たちは「川村さんたちには本当にお世話になったものじゃ」と異口同音に述懐していた。「南丸では川村の作った丸木舟で大正11年(1922年)の大水害まで中島と六号線に私設渡船場が設けられていた。」「アキアジの取り方は川村さんから教わった」「それで八升コガ(樽)に二本ずつ筋子を漬けたもんだ。もっと漬けたけどその頃は樽で醤油を買う銭にも不自由していたの

で、二樽しか漬けれなかった」鮭はもちろん密漁に当たるが、魚を買う金の余裕などあるはずがなく、鮭でも獲らなければ動物性たんぱく不足で風土病にかかり、開拓は成功しなかったであろう。

そのほか着手小屋の作り方をはじめ、食草や薬草の見分け方・食べ方、シナ縄の編み方、染料の作り方、樺皮容器の作り方など、直接間接を問わず厳しい北海道の生活に耐え得る工夫はほとんどがアイヌの生活に学んだものである。

自らやその祖先は場所請負制度により民族滅亡の危機に陥るほどの可責を受けながら、貧しい開拓者に対しては「困っている者を助ける」という伝統の愛情心をもって、北海道での生き方を伝授してくれたのである。

町は昭和37年の開基50周年記念式に当時のアイヌの人たちを代表して故川村シツムアイヌ氏（通称熊吉）（大正14年没）を町開拓功労者として顕彰している。



川村シツムアイヌ 氏

また、平成24年に開催された「丸瀬布100年記念事業」では、祖先が入植したときには、すでにアイヌの人たちがこの地で生活していたことから「開基」という表現ではなく「開拓」に統一している。

ただ、アイヌの人たちはずっと丸瀬布に住んでいたわけではない。丸瀬布や上武利に居住したアイヌの大半が場所請負人たちの過酷非道な扱いに甘んじることを潔しとせず、1810年頃に集団で上川当麻周辺へ逃避したが、明治22年（1889年）旭川～湧別間に仮道路が開削された翌年に5家族がムリイ（上武利）に移住した。

丸瀬布では、富山県北野村（現南砺市）の村長であった岩井藤三郎、長谷川久作、畑辰次郎が丸瀬布金山渡船場に到着した明治45年2月25日（1912年）を「開拓のはじまり」としているが、それ以前の明治24年（1891年）に上川～網走間の中央道路が開通したことにより12カ所の駅通が開設され、明治26年4月22日南丸に官設七号滝ノ下駅通の開設に伴い佐藤太七が駅通取扱人として丸瀬布に入ったのが最初である。その後金山橋の流失に伴う工事を請け負った気田和三郎が明治32年（1899年）その飯場で旅宿業を営み、駅通を除く和人定住の第一号となった。

遠軽町「野口芳太郎の生涯」

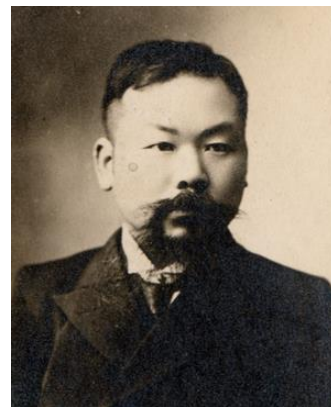
明治2年11月24日－明治44年10月 享年41才
高知県香美郡山田野地村出身。

明治25年東京早稲田専門学校（政治全科）卒業後、二松学舎で日本語教師をする。故郷土佐の武市安哉代議士の北海道未開地開墾の志に賛同し、明治26年樺戸郡浦臼の農場事務所へ。

明治20年早稲田在学中、「三大事件」がおこると、泥中に身を投じた経歴の持主で、自由民権運動の士である。浦臼の「聖園」の時代にキリスト教の洗礼を受ける。その後、現北見の北光社（坂本直寛・前田駒次・澤本楠弥等）の入植準備をした後、遠軽『学田』に入植する。学田とは北海道同志教育会（押川方義代表）が遠軽学田の地にキリスト教主義の大学を設立しようという遠大な計画の元、入植者を募った組織である。

明治30年学田に入植後、大水害に合い、その夢は絶たれたが、後の遠軽郵便局初代局長になる。学田入植者の為、北見青年会を組織、夜学校を開設したり、遠軽教会設立に尽力する。

彼の思想・哲学は、当時の入植者の道標となった。遠軽開拓の礎を築いた人である。



なな・なんと情報に掲載希望の情報を募集いたします。遠軽地区全体にお知らせしたい情報がありましたら各町教育委員会（教育センター）までご連絡ください。発行は偶数月で年6回を予定しています。ただし、営利・宗教・政治を目的としたものは掲載できません。また紙面の都合上、掲載できない場合もありますので、ご了承ください。

☆湧別町教育委員会……………Tel01586-5-3132

☆佐呂間町教育委員会……………Tel01587-2-1295

☆遠軽町教育委員会……………Tel0158-42-2191

☆遠軽町生田原教育センター…Tel0158-45-2010

☆遠軽町丸瀬布教育センター…Tel0158-47-2456

☆遠軽町白滝教育センター…Tel0158-48-2213

※この情報紙に関することは、各教育委員会（教育センター）へお問い合わせください。

■総合窓口：メールアドレス shakyo@town.yubetsu.lg.jp （令和元年度担当/湧別町教育委員会）

